

和算の再発見

東洋で生まれたもう一つの数学

城地 茂

大阪教育大学国際センター教授

定価 1944 円・232 頁

ISBN978-4-7598-1358-6



西洋数学伝来以前に日本で栄えた数学、和算。

関孝和に代表される和算は、江戸時代に突如出現したものではなく、2000年を超える東アジアの数学文化の蓄積の上に成立したものである。

本書では、和算の源流を中国数学に求め、それが日本でどのように受容され、独自の発展を遂げるようになったのかを、時間的、空間的に比較して、和算のパラダイム変遷の過程を読み解く。最終的には西洋数学に置き換えられることになった和算。

その数奇な歴史にひそむ知恵とは。

6月10日頃
発売予定

◆目次◆

序章 和算とは

第1章 和算の源流

——北中国数学と南中国数学

第2章 三平方の定理と円周率

——「古代」数学パラダイムの完成

第3章 掛け算九九の伝来と算学教育

——律令格式時代の算学

第4章 どのような人が和算家になったのか

第5章 新たな段階に入った和算

——「近世」の算学

第6章 方陣（魔方陣）の研究

第7章 和算発展の背景

——遺題継承と算額奉納

第8章 西洋数学との邂逅

和算関連年表／巻末注／参考文献